洲本市域学連携事業のあゆみ

2013年度（１年目）

活動地域や連携団体：千草竹原、大森谷、五色OFG、五色町漁業協同組合

2月（2012年度）

総務省の「域学連携」地域活力創出モデル実証事業に応募

3月（2012年度）

全国16団体がモデル事業に採択される。龍谷大学は京丹後市と洲本市の事業が採択され、中期滞在型の合宿を実施

８月４日～9月4日

1ヶ月間のフィールド合宿（9日間×3クール）

第１クール ：地域課題の調査、魅力マップづくり

第２クール ：ビジネスプランを考える、千草竹原で流量計測

第３クール ：グリーン＆グリーンツアーを企画

10月

・フィールド合宿の報告会を龍谷大学で開催

・有志による実行委員会をつくり、グリーン＆グリーンツアーを企画

1月

龍大生をモニターとして、３つのツアーを実施

①大森谷ツアー、②かいぼり体験ツアー、③日帰りツアー

3月

株式会社リバー・ヴィレッジによる千草竹原の小水力発電計画案

洲本プロジェクトのコンセプト

「グリーン＆グリーンツーリズム」

一つめのグリーンは、洲本市の自然、農漁業、食べ物

二つめのグリーンは、再生可能エネルギー

このふたつを有機的につなげる。

都市と農村をむすび、そこに暮らす人と交流する体験型ツアー

思い出の1カ月、フィールド合宿

2013年8～9月の夏休み、政策学部や経済学部の学生75名が島に滞在。9日間を１クールとして、２クール、3クール参加した人もいる。昼は五色庁舎第二別館、夜は淡路ツーリスト・トロフィー・ハウス、風呂はゆ～ゆ～ファイブ五色に通った。早朝から夜遅くまで、盛り沢山なスケジュール、思い出すと懐かしい。

2014年度（2年目）

活動地域や連携団体：千草竹原、大森谷、五色OFG、五色町漁業協同組合

4月

龍谷大学政策学部のアクティブラーニング科目になる

「政策実践・探究演習ＩＡ・ⅡＡ（国内）洲本プロジェクト」スタート

5月

2013年度のフィールド合宿に参加した学生12名で「Rijin」結成

8月

4地域の10年後のありたい姿をまとめるためインタビューを実施

9月

地域でインタビューを実施。洲本市と龍谷大学が「域学連携協定」締結

11月

・千草竹原で小水力発電の導水路、U字溝の設置工事

・オータムフェスタで「すもとまるごと丼」販売・完売

1月

・五色町鵜飼地区のかいぼりツアーに政策学部１年生参加

・10年計画の最終報告

2月

洲本・再生可能エネルギー塾（全4回）を開催、千草竹原で㈱リバー・ヴィレッジによる小水力発電機の設置作業ワークショップ

３月

学生企画による小水力発電の電気で音楽イベントを開催

10年計画をつくろう

地域の皆さんに、これまでの来し方やこれからの地域のありたい姿をインタビューし、10年後にありたい姿と中期・長期目標を考えた。

小水力発電をつかった音楽イベント

千草竹原の小水力発電は、九州大学のメンバーが起業した㈱リバー・ビレッジと龍谷大学の協力により設置された。小水力発電で得た電力（3kWh）でコンサートをしようと学生が提案し、地域の人と一緒に開催した。2015年3月、2016年10月の２回実施。

2015年度（3年目）

活動地域や連携団体：千草竹原、大森谷、五色OFG、五色町漁業協同組合、塔下新池田主

6月

・五色OFGで玉ねぎ収穫体験

・鳥飼漁港と都志漁港で、水揚げ見学や地引網体験の手伝い

8月

・「広報すもと」巻頭特集で、域学連携事業が紹介される

・塔下新池を初めて訪問し、田主と学生の意見交換ワークショップ開催

10月

・千草竹原で、学生企画の小水力発電を使った音楽イベント

・大森谷で太陽光発電のフットライト設置作業

・京都工芸繊維大学が古民家を改修した「ついどはん」完成。域学連携の拠点としてスタート

11月

大森谷でフットライト点灯式、学生企画のキッズイベントを開催

12月

柿の木池でかいぼり体験ツアー

3月

「洲本市域学連携事業」成果報告会で、龍谷大学、京都工芸繊維大学、京都造形芸術大学、早稲田大学が活動を発表。住民と学生による意見交換ワークショップを開催

大森谷に太陽光発電フットライト

大森谷にある広場「遊・おもんだに」の夜間照明として、太陽光発電を使ったフットライトを設置。点灯式として、学生企画による子ども達を招いた住民交流イベントを開催した。

域学連携の拠点、ついどはん完成

五色町鮎原下にある築100年を超える古民家を京都工芸繊維大学の院生らが1年半かけて改修した。母屋と離れ、蔵がある。「ついどはん」という愛称は京都造形芸術大学（当時）の学生が命名し、ロゴも作成。

2016年度（4年目）

活動地域や連携団体：千草竹原、大森谷、塔下新池田主、浜田化学㈱、淡路信用金庫、鮎原下

7月

・学生と塔下新池田主の意見交換ワークショップを開催

・バイオディーゼル燃料を使った音楽フェスの打ち合せ

9月

・中川原町市原で住民と小水力発電のワークショップ

・淡路信用金庫本店で、CSR活動としてかいぼりへの参加をプレゼン

・ついどはんで京都工芸繊維大学の学生と交流、蔵の改修作業

12月

・大森谷でRijinメンバーとかいぼり

・塔下新池で、フロートソーラーの設置作業

1月

・八京池でかいぼり、淡路信用金庫が初参加

・千草竹原でダイナモ式発電機を製作し、デモ機として市原に設置

・塔下新池ため池ソーラー発電所竣工式で、学生のデザインによる看板を披露

３月

里山整備委員会と学生団体Rijinが合併して「大森谷里山保全隊Rijin」に発展

塔下新池ため池ソーラー発電所

五色町塔下にある農業用ため池の塔下新池で、フロート型の太陽光発電を設置し、2016年1月から売電を開始した。PS洲本㈱による地域貢献型再生可能エネルギー事業の１号機となる。

大森谷里山保全隊Rijin

2014年に学生団体として設立した「Rijin（里人）」は、里山整備委員会と合併し2017年3月「大森谷里山保全体Rijin」に発展。地域のお母さんや子ども達も入って活動する。

2017年度（5年目）

活動地域や連携団体：千草竹原、塔下新池田主、浜田化学㈱、淡路信用金庫、洲本プロジェクトOB

7月

温泉施設「ゆ～ゆ～ファイブ」に設置された竹チップボイラーを見学、塔下新池の水草除去作業、音楽フェス打ち合せ

8月

- 三木田大池でフロートソーラー発電所の建設作業体験
- 千草竹原で小水力発電の導水路補修作業
- 洲本プロジェクトOBの里帰りツアー、現役生とOBの交流

9月

「龍谷フロートソーラーパーク洲本」竣工式

10月

- 音楽フェス台風のため中止
- 塔下新池周辺のあるもの探し、田主の皆さんにインタビュー
- 第5回プラチナ大賞優秀賞受賞（洲本市、龍谷大学、PS洲本㈱）

1月

- 平成29年度新エネ大賞審査員長特別賞受賞（PS洲本㈱、洲本市、龍谷大学）
- 八京池でかいぼりツアー、淡路信用金庫と学生が参加し住民交流会
- 鮎原下で竹伐採、ついどはんで竹灯籠の製作

龍谷フロートソーラーパーク洲本

2017年９月、中川原町三木田にある三木田大池で「龍谷フロートソーラーパーク洲本」（1.7MW）が完成した。農業用ため池を活用した、PS洲本㈱による地域貢献型再生可能エネルギー事業で、売電収益の一部が地域に還元される。龍谷ソーラーパークは、和歌山県印南町、三重県鈴鹿市に次いで３号目となる。

洲本プロジェクトOBの里帰りツアー

2017年8月、2018年2月、洲本プロジェクトOBが集まるツアーを開催。懐かしい淡路ツーリスト・トロフィー・ハウスに泊まって海ホタルを楽しんだり、千草竹原や大森谷の今を訪ねた。洲本プロジェクトの現役生と卒業生がつながる機会になった。

洲本市域学連携事業のあゆみ

2018年度（6年目）

活動地域や連携団体：千草竹原、塔下新池田主、浜田化学㈱、淡路信用金庫、淡路島自転車推進協議会、NPO法人淡路島アートセンター、Rijin、首都大学東京（当時）

6月

自転車ツアーの打ち合わせ、千草竹原でナルトサワギク除去作業

7月

塔下新池田主と、鮎原米の新しい販売方法について意見交換

8月

・塔下新池田主と、学生企画による鮎原米を使った米ワッフルの試食会

・自転車で五色町内を走行調査

9月

・竹チップ製造工場の見学、竹チップボイラーについてヒアリング

・自転車で市内を走行調査、学生企画のOBツアー開催

10月

商店街活性化のイベント「レトロこみち」でRijinと共同出店、鮎原米ワッフル完売

11月

みなひと音楽祭でパネル展示、サイクリングマップのスポット調査

12月

サイクリングマップのコース試走、首都大学東京の学生とワークショップ

2月

・鮎原下で竹狩りツアー、淡路信用金庫と学生が参加

・サイクリングマップ「すもりんぐ」完成、域学連携シンポジウム開催

鮎原米ワッフル

淡路島のブランド米「鮎原米」を島外にPRし、地元農家にお金が落ちる仕組みを作りたい、と学生が考えた企画。鮎原米のもちもちとした触感をいかした米ワッフルのレシピを開発。レトロこみちで販売し大盛況！

洲本市×６大学連携シンポジウム

2019年2月23日、洲本市文化体育館で開催。域学連携の成果を発表、ポスター展示など。大学間の交流がいよいよ本格始動。

洲本市域学連携事業のあゆみ

2019年度（7年目）

活動地域や連携団体：千草竹原、淡路信用金庫、武田食品冷凍㈱、洲本プロジェクトOB、京都工芸繊維大学、京都大学エスノ３ジョウ

5月

安乎町で幼竹狩り、武田食品冷凍㈱で幼竹の塩漬けを見学

7月

学生企画のメンマづくり、五色町の淡路特別養護支援学校跡地見学

8月

京都工芸繊維大学の合宿に参加（淡路特別養護支援学校跡地の相部屋宿泊所づくり、米田屋の土壁塗り）、Rijinツアーに参加

９月

学生企画の新メンマづくり、千草竹原でキャンプ体験、京都工芸繊維大学と千草竹原でワークショップ、洲本市地域おこし協力隊合同卒隊発表会で甘いメンマ「アメーンマ」の試食会、アンケート調査を実施

10月

龍谷大学SDGsポスターコンペに「放置竹林の解決にむけて」を出展し、学長賞を受賞

12月

大森谷で、かいぼりと子どもクイズ大会

2月

・五色町鮎原下で竹狩りツアー、淡路信用金庫とコープこうべも参加

・安乎町で１年生の竹狩りツアー、バームクーヘンづくり

・京都大学エスノ３ジョウが企画した大学生地域創生会議合宿

龍谷大学SDGsポスターコンペで学長賞

龍谷大学の学生が主催したSDGsポスターコンテストに、放置竹林の解決をめざす取り組みとして、洲本プロジェクトの幼竹メンマづくりを紹介した。新規性を評価され学長賞を受賞。

千草竹原にキャンプ場オープン

あわじ花山水の駐車場を活用して、一日一組限定のキャンプ場をスタート。千草竹原の魅力を発信し、リピーターを増やす試み。

洲本市の域学連携事業のあゆみ

2020年度（8年目）

活動地域や連携団体：千草竹原、塔下新池田主、あわじ里山プロジェクト、洲本プロジェクトOB、コープこうべ

5月

Rijinと学生のオンライン交流会

8月

・洲本プロジェクトOB、千草竹原、塔下新池田主とオンライン交流会

・洲本市の域学連携事業OBへのアンケート調査を開始

９月

・武田食品冷凍㈱であわじ島ちくについて見学

・総務省令和2年度「関係人口創出・拡大事業」モデル事業に採択され、

卒業生との関係再構築による“即戦力人口”創出事業として

「おもろいの学校」をオンライン開校をスタート

11月

・千草竹原でPRビデオの撮影、名もなき観光のPRビデオ撮影

・塔下新池田主にアンケート調査説明

12月

千草竹原のキャンプ場でPRビデオの撮影

2月

オンラインスタディツアーを開催、政策学部1年生とコープこうべから参加

3月

・「あわじ島ちく」アレンジレシピ集2021年版を作成
・龍谷大学ユヌスソーシャルビジネスリサーチセンター洲本ブランチ開所

「おもろいの学校」オンライン開校

洲本市の域学連携事業に参加した卒業生とのつながりを再構築し、関係人口を増やすために、オンラインによる「おもろいの学校」を４回シリーズで開校（2021年1月まで）。

あわじ島ちくアレンジレシピ集

塩漬け加工した幼竹「あわじ島ちく」を使ったオリジナルレシピを学生が開発。和食、洋食、中華、アジア料理など16品を冊子にまとめて紹介。

2021年度（9年目）

活動地域や連携団体：千草竹原、塔下新池田主、あわじ里山プロジェクト、大森谷

5～6月　事前学習としてバーチャルフィールドワークを3回実施

7月　千草竹原で古民家の荷物片づけ

10月

・あわじ里山プロジェクトとコラボ商品を企画。あわじ島ちく×鮎原米アレンジレシピ集を発行、「きょうのつまみで一缶」「きょうの晩ご缶」をゴトカン（ご当地缶詰自動販売機）で販売スタート（2022年3月まで）

・千草竹原で原木しいたけ狩りイベントに参加

11月

・一般財団法人地域活性化センター地域創生グループ主催の「令和３年度地方創生実践塾」が兵庫県洲本市で開催

・龍谷大前深草駅前で「龍大駅マルシェ@龍谷大前深草」を開催。塔下米、あわじ島ちく、あわじ島ちくアレンジレシピ集を販売

12月

大浜海岸でテントサウナのテスト実施。千草竹原で小水力発電の導水路工事、水路そうじ。大森谷でかいぼり

2月　安乎町で竹狩り

3月

白石先生、太田さん、水田さんのインタビューをまとめた「千草竹原2022」作成

あわじ島ちくアレンジレシピ集

2020年度につづき「あわじ島ちく」を使ったオリジナルレシピを考案。おつまみ、ピザ、和え物、つくね、とん平焼き、中華風雑炊など13品をまとめ調理方法を紹介した。

千草竹原2022

千草竹原のアーカイブ雑誌として「千草竹原2022」を発行。域学連携のはじまり、あわじ花山水への想い、小水力発電のこと、原点を知るためのシリーズ第1弾。

洲本市域学連携事業のあゆみ

2022年度（10年目）

活動地域や連携団体：千草竹原、塔下新池田主、あわじ里山プロジェクト、シェアホースアイランド

5月　竹林整備作業

8月　イベントにむけて竹灯籠を試作、レンタサイクルで市内走行

9月

・塔下新池田主と五色町鮎原塔下マップ制作にむけてワークショップ

・あわじ里山プロジェクトと竹のやたら編みを体験

10月

千草竹原で「手作り竹灯籠＆星空観賞」イベント開催。
親子連れ約20名参加し竹灯籠を作った。夕暮れに星空観賞

11月

・メンマサミットにむけて竹ティピー試作

・「第4回純国産メンマサミット」洲本市文化体育館で開催、
全国から約300名参加

12月　4年生対象にOBツアー開催。千草竹原とシェアホースアイランドで交流を深めた

2月

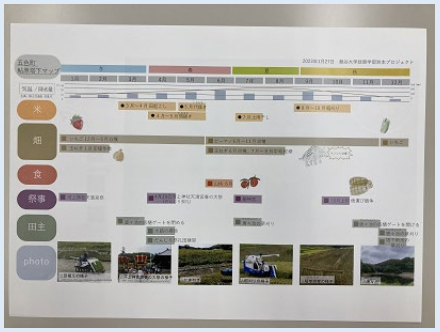
・「五色町鮎原塔下マップ」作成

・スタディーツアー開催。小水力発電水路補修、古民家改修

３月　「すごし方ガイド」作成

五色町鮎原塔下マップ

塔下新池周辺の生活季節歴をまとめたフェノロジーカレンダーを作成。地域の自然と人の営みがわかるよう、農業、食、祭事、田主が参加する行事を月ごとに掲載した。



千草竹原2023
すごし方ガイド

千草竹原の魅力を伝えるガイド本。親子で楽しめるアクティビティを「食べる」「学ぶ」「自然と触れ合う」「体を動かす」のカテゴリーで紹介。おとまりプランと日帰りプランを提案した。

コンセプトとアプローチ

グリーン&グリーンによる地域活力
（淡路島の豊かな自然と生活文化、農漁業と食、再生可能エネルギー）

①学生教育アプローチ
・課題解決型授業
・グリーン＆グリーン・ツアー
・学生と地域の協働による地域再生

②社会的事業アプローチ
・大学教員による非営利型株式会社
・自家消費モデルの小水力発電
・売電モデルのため池フロートソーラー
・再エネの売電収益を地域に寄付

龍谷大学
政策学部

政策実践・
探究演習
洲本PJ

PS洲本㈱

地域貢献型
再生可能エネル
ギー事業

学生参加数、班数、フィールドワーク数

期	年度	参加学生数	班数	班構成	FW回数	滞在日数
1	2013	学部生75	4	千草竹原、大森谷、五色OFG、五色町漁協	1	33
2	2014	学部生21、院生1	4	千草竹原、大森谷、五色OFG、五色町漁協	4	12
3	2015	学部生19、院生1	3	通年（村民証/再エネ/見せる）、イベント（千草竹原/大森谷/かいぼり）	6	9
4	2016	学部生22、院生1	3	塔下＋三野畑、かいぼり＋中川原、BDF音楽フェス	5	11
5	2017	学部生25、院生1	3	塔下、再エネツアー＋かいぼり、BDF音楽フェス＋竹活用	7	10
6	2018	学部生29、院生1	4	千草竹原、塔下、竹、イベント、(+OB連携)	9	17
7	2019	学部生20、院生1	3	地域活性化班、産業おこし、連携づくり	6	11
8	2020	学部生23、院生1	4	千草竹原、塔下新池、竹ビジネス、連携づくり	3	3
9	2021	学部生24	4	千草竹原、塔下新池、竹ビジネス、連携づくり	4	5
10	2022	学部生24、院生3	4	千草竹原、塔下新池、竹ビジネス、ゼロイチ	8	14
11	2023	学部生18	3	千草竹原、塔下新池、企業連携		
計		延べ310名	39		53	125

*FW=フィールドワーク

・2013年度は夏休みに１カ月間のフィールド合宿
・2014年度から授業として、政策実践・探究演習（国内）洲本プロジェクト
・2023年度は11年目

社会的事業アプローチの成果

フロートソーラー発電所

非営利型株式会社PS洲本㈱による、地域貢献型再生可能エネルギー事業

塔下新池ため池ソーラー発電所

・所在地　洲本市五色町鮎原塔下1596
（満水面積0.3ha）
・設置規模　72.8kW
（出力50kW　設置面積0.1ha）
（災害時等は電源に利用可能）

・事業費　2200万円
・年間発電量　8.6万kWh
（設置・撤去期間含む）
・事業主体　PS洲本㈱
・竣工　2017年1月

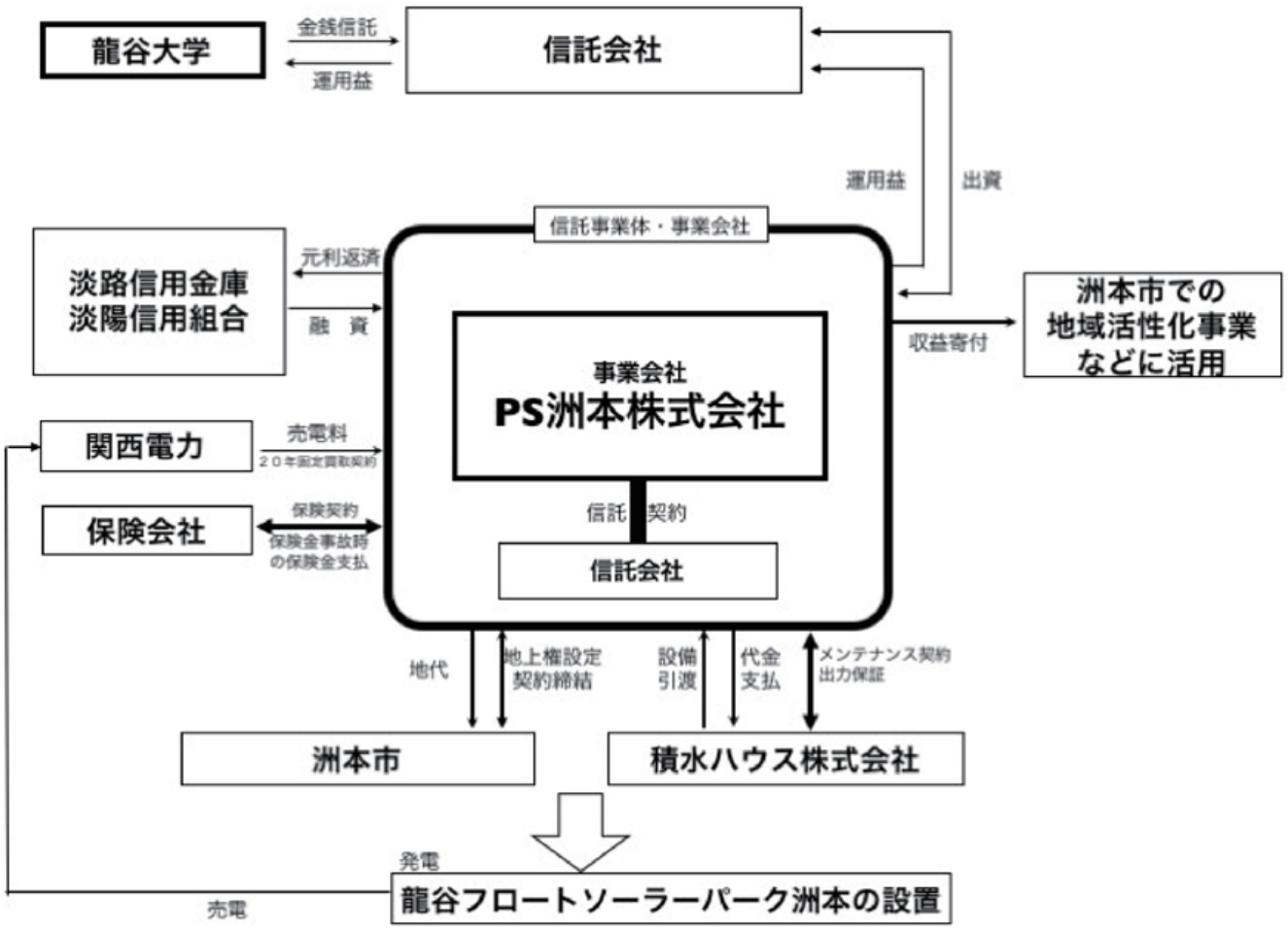
龍谷フロートソーラーパーク洲本

・所在地　洲本市中川原町三木田1242-1
（満水面積4.8ha）
・設置規模　1,706kW
（出力1,500kW　設置面積1.8ha）

・事業費　約７億円
・年間発電量　約207万kWh
・事業主体　PS洲本㈱
・竣工　2017年9月

事業収益の一部を洲本市の社会的事業や域学連携に還元

龍谷フロートソーラーパーク洲本の事業スキーム



（竣工記者会見用配布図　©PS洲本株式会社）

10周年ワークショップ（龍谷大学）

- 2023年10月24日、27日の2回開催
- 政策実践・探究演習の担当者参加
- テーマ
  ①洲本プロジェクトをどのように見ていたか
  ②成果や課題
  ③今後の方向性

洲本プロジェクトをどのように見ているか

- 成果を出しながら学生のやる気も上げることは難しいが、両立している。いい塩梅
- 洲本には色々な資源が投入されてきた。櫻井実践型教育プランナーがコーディネートのプロとして10年間関わっている
- フロートソーラーは、白石教授や深尾教授が事業化しながら学びの場を作ってきた
- 常に最前線で、知的資源やノウハウ、それに伴う人やお金を自身で獲得してきた
- 学生は楽しんで新しいチャレンジ、地元の人も反応。お客さん状態ではない
- 資源が形になって反応し燃えて成果となり、次の資源になる。自己増殖している
- 市役所のバックアップが大きい。戦略的に高橋氏がドライブしている。市役所が大学と地域の間に入り、価値観がずれないようにしている

成果と課題

- 2013年以降、地域おこし協力隊員を域学連携に配置してきた。この仕組みは他市にない特徴。域学に関わった隊員が定住し、今後の10年に期待が持てる。地域側の世代交代、新陳代謝ができている

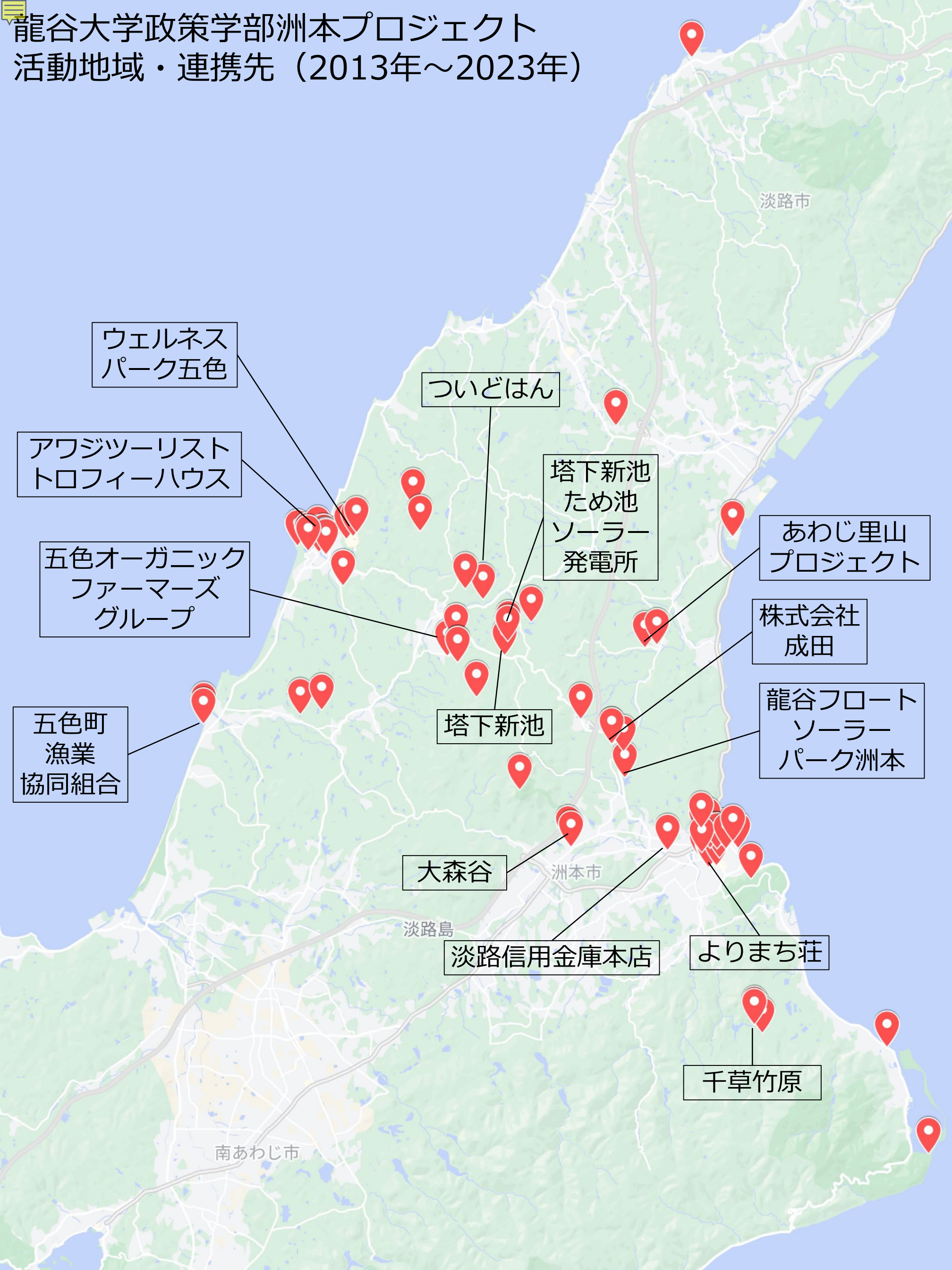
- ヨーロッパではずっと同じ人がエネルギー部門を担当している。岡山県西粟倉村も同様。域学連携からどのような行政の学びがあったのか

- スタート時は、再エネのまちづくりを政策のフレームワークしようと努力してきた。だが最近は、学生の体験型に留まっている。共に政策を変えていくことが政策学のミッション

- 洲本プロジェクトの活動が色んな地域に広がり、学生の力が分散しているのではないか。資源がありすぎて、そこに学生をどう付けるか苦労があるだろう

- 色々と場所を変えるほうが教育の新規性に効果があるのか、計画的に一カ所に絞ったほうが良いのか

今後の方向性

- 今後も市役所がしっかりコミットする必要がある
- 外から学生が来て地域を賑わせ、移住者や関係人口がでるのは、そう簡単ではない
- よくある学生と地域の活動ではなく、地域が花咲くことをもう一度するべき
- 市役所が環境の最先端を行きたいと思ったところに面白さがある。そこを大学も協力したい
- 政策学部の資力を洲本に結集して、研究から教育まで濃く関わるのも面白い
- 域学連携は地域と大学、クエストカレッジは企業と大学。二つが両輪のように走ると良いのでは

龍谷大学政策学部洲本プロジェクト
活動地域・連携先（2013年～2023年）